
orzの魔法使い

反自律(= `ω´=)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

o r zの魔法使い

【Nコード】

N1175Z

【作者名】

反自律（Ⅱ、ω、Ⅱ）

【あらすじ】

しょーもない性格のチートな大魔法使いにひろわれた青年が一方的に振り回されるだけのおはなし。

連作短編として気まぐれに書き下ろしていく予定。

1. いきだおれ。

こん。こん。

「つま先で蹴っても返事がない。

ただのしかばねのようだ」

ゴン！

「うっ！

……ううん……」

「……っち。

しかばねにはまだ早すぎたようだ。

残念。

せっかく活きのよい生体素材がゲットできたと思ったのに……。

しかたがない。ゴーレムでも呼んで運ばせるか。

生きたまんまでもそれなりに役には立つだろう。

主に、わたしの暇つぶしとかに」

「うっ……。

ううん……」

「お目覚めになられましたかお客様」

「こ、ここは……っ、てっ！

うわあっ！」

「三日三晩の昏睡から目覚めたばかりだというのにお元気そうだなによりですお客様。とても拾われたとき、全身表面積の三分の一以上を凍傷におかされ肺炎も併発していたとは思えない回復ぶり。

さすがはご主人様。完璧な治療処置でございました」

「あああ。あんた。

そ、その顔……。

な、なんで木の人形がしゃべっているんだ?!」

「いきなりの大声はまだまだお体にお障りになりますのでご自重くださるようお願いいたします。

次にご質問にお答えしますと、わたくしはご主人様にメイドとして制作されたウッドゴーレムなので所与の機能として日常会話能力もデフォルトなのですがなにか？

最後に備考としていわせていただきますと、表情筋こそないものの、わたくし、その内面は十代の乙女として設定されております。したがって、初対面の方からそのように不躰かつ化け物を見るような視線で注視されると少なからず傷ついてしまうのだということを僭越ながらご報告させていただきます」

「あ……いや、すまん。

よくよく思いだしてみると、おれって凍死しかけたところを救われてここにいるんだよね……。

メイドだかウッドゴーレムだか知らないが、助けてくれた人いきなりあんまりな態度をとったり大声を出したりしたのは、どう考えてもおれが悪かった。

謝らせてくれ」

「お気になさらず。

わたくしの製造者でもあるご主人様からわたくしに遭遇したときに想定される一般人の反応についてもひととおりレクチャーされておりましたので、傷つきはしましたがそれでも想定範囲内の反応ではありました」

「その……今更だが、助けてもらった礼もいいたい。あのまま森の中に放置されていたら、凍死か野獣に食われるか……いずれにせよ、おれ確実に死んでいたはずだ」

「そちらのお礼なら、わたくしではなくご主人様におっしゃるのが筋かと思えます。

あなたを拾ってきたのも治療したのも、わたくしではなくわたくしのご主人様ですので」

「そうだ。

礼をいいたいのなら、このわたしに存分にいうがいいっ！」

「うわっ！」

「……って、またでかい声だしたな、青年。

起きがけといい今といい、死にかけたばかりなのに随分威勢のいいことだ」

「だ、だって……目覚めてからすぐ、いきなり木彫りの人形のどアップから声をかけられたり、いきなりなにもない空中に人がでてきたりすれば、誰だって驚くだろう……」

「お前さんを治療したあと、お前さんが目を覚ましたら伝えるようにと言が残して、この子に寝ずの番をさせていたんだよ」

「三日三晩お客様の寝顔を見守らせていただきました」

「ごめんなさい。」

こんなとき、どんな表情をすればいいのよくわからない。

それはともかく……いきなり空中からでてくるなよ」

「お前さんが目を覚ましたとこの子から魔法通信が入ったので、取り急ぎ手っ取り早く魔法レポートを使って駆けつけたわけだが……なにか問題があったか？」

「心臓に悪い」

「ふむ。」

治療したときにひととおり健康状態もチェックしておいたのだが、心臓に疾患を抱えていたとは気づかなかったな。

そうと聞けば放つてもおけまい。さあ、再検査だ。さっさと脱いで全裸になりたまえ。今すぐ全裸になりたまえ」

「ご主人様。

わたくしは心が乙女ですので、殿方の全裸から全力で逃げ出したい思います。この場を中座することをお許しください」

「ん。わかった。」

何かあったら呼ぶからそれまでは部屋の外にでていなさい。最低でも二時間から三時間以上かけてしっぽりと楽しむ所存だ。

ほかのモノたちにもわたしの楽しみを邪魔するなと伝えておいて

くれ」

「心得てございますご主人様」

「あっ。こちら。」

いきなり服を脱がそうとするな抱きつく変なところを撫で回すなっ！

心臓に悪いというのいはそういう意味じゃないっ……て……。

あっ……。

ああっーっ！」

「よいではないかよいではないか。

すでに一度、全身くまなくじっくり調べたり調べられたりした仲だ。

もっとも、三日前は意識がなかったから反応がなくてイマイチ面白味に欠けたがな」

「ふう……。

行為のあとの一服は格別だぜ」

「ううっ……。

もう、お婿にいけない……」

「泣くなよ。

これがはじめてだというわけでもないし」

「そのはじめても、おれの意識がないのをいいことに、あんたが無理矢理……。

はじめてがどうこういう以前に……ヒトとしてどうなんすか？

生きたままの人間を分解掃除するというのはっ！」

「直接みて触って嗅いで味わった方が、手っ取り早いし確実なんだよ。

かなり細かくバラバラにしたけど、空間断層魔法を使ったから、痛みとかもぜんぜんなかったろ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1175z/>

orzの魔法使い

2011年12月4日11時53分発行